

仕事がわかる!

業界図鑑

vol.47

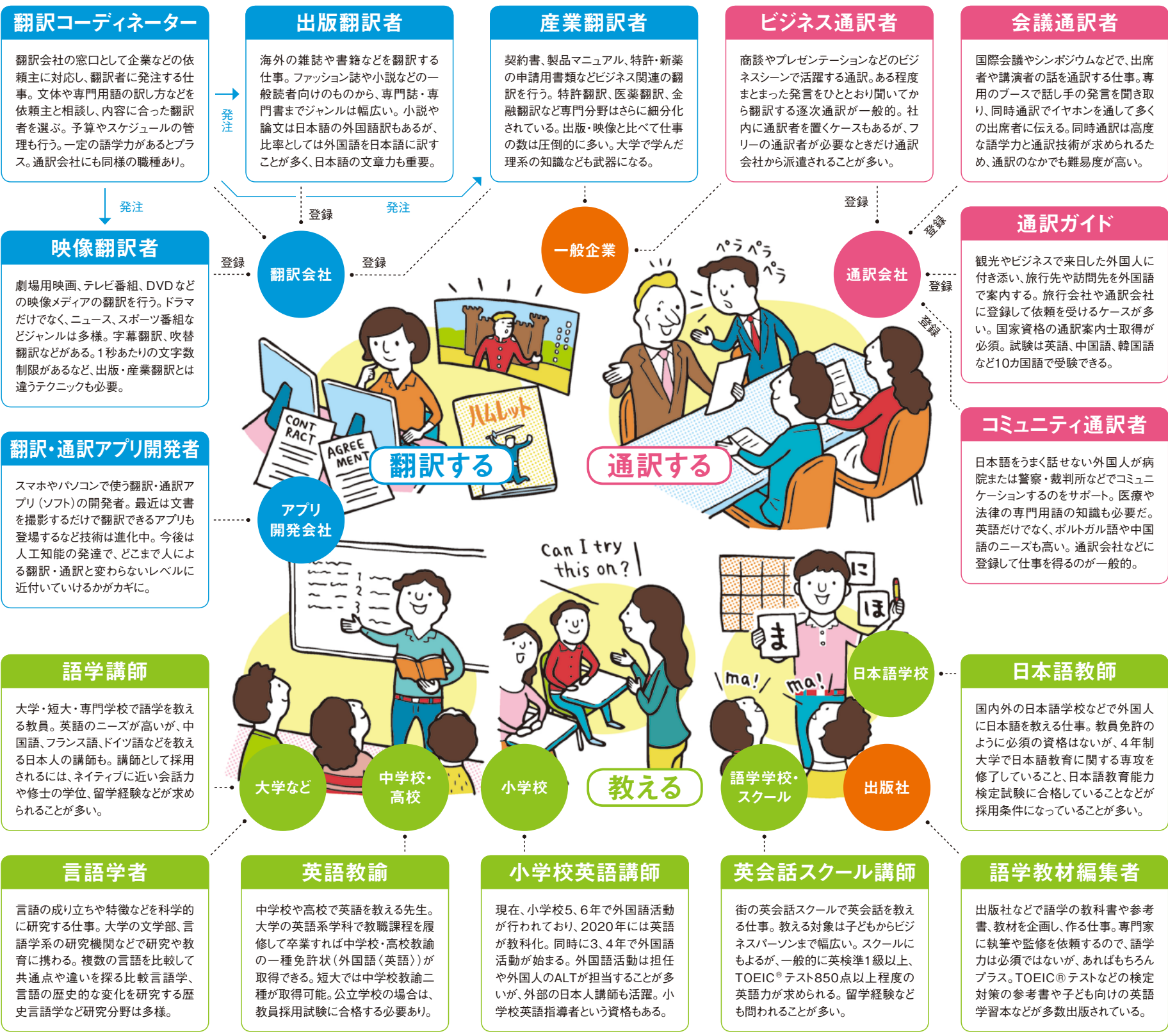
グローバル時代の人や技術の交流を支える

語学を活かせる仕事

取材・文/伊藤敬太郎 撮影/田中史彦 イラスト/桔川 伸

アジア系の言語などもニーズあり! 活躍の場が広がる「語学の専門家」

企業活動や人の交流がどんどんグローバル化していくなかで、その役割がより重要になっている「語学」のスペシャリスト。英語はもちろん、中国語、韓国語、フランス語など様々な言語にニーズがあり、最近では東南アジアの言語なども注目されている。「翻訳する」「通訳する」「教える」の3つの切り口から、それぞれどんな仕事があるのかを解説しよう。



最新の業界事情

グローバル化が進み 翻訳ニーズなどが拡大

海外に工場や支社を作ったり、海外で商品を販売したりする企業は年々増えており、商品のマニュアルや海外工場の研修用プログラムなどの翻訳ニーズは拡大傾向。通訳に関しては、外国人労働者の増加で今後注目されるのはコミュニティ通訳。いずれも、アジア系言語など英語以外の言語はまだ人材も少なく、期待大の領域だ。

学校でもビジネスシーンでも語学教育の重要度が高まっており、TOEIC®テストや英検などの語学検定がブーム。教材や対策講座などの関連ビジネスも盛り上がりつつある。

美しい英語よりも正確さとスピードが重要

川島さんは、現在、特許翻訳を扱う部門の管理職。マネジメントの傍ら、今も翻訳やチェックを担当する。「以前は特許を申請する際に発明の内容を説明する「明細書」の翻訳も行っていました。最近は、短めのビジネスライターなどが中心です」

翻訳会社では、主に、フリーの翻訳者に翻訳業務を依頼するので、その品質チェックの仕事も多い。「産業翻訳の和文英訳では、美しい英語が常に求められるわけではないので、高校卒業〜大学レベルの英語力でも十分対応可能なケースが多いです。むしろ大切なのは正確さとスピード。また、専門用語が頻出するので、コンピュータ、医薬品などの専門性があると強みです」

翻訳には、パソコンの翻訳支援ツールを使う。明細書などを英訳する際は、最初に専門用語についてリサーチ。次はツールの画面上で、日本語の原文に上書きするかたちで、頻出する単語から先に置換していき、後から英語の文章に整えていく。また、原文には矛盾や間違いも多い。翻訳をしながら気づいた点はこ

コメントを付けて依頼主に提出する。こういったプロセスの仕事ができる。と翻訳者としての評価が高まる。

高校時代から英語が好きで大学は英語学科へ。翻訳の基礎は大学で学んだ。英語ももちろん大事だが川島さんはこんなアドバイスも。「日本語の文章を正しく理解し、日本語で表現する力も重要。国語もしっかり勉強してほしいですね」

川島さんの「一日」

8時前に出社。午前中は外注した翻訳のチェック。午後は急ぎの翻訳や社内のメンバーとのミーティングなど。ビジネスライターの翻訳は1本30分から1時間ほど。子会社の翻訳学校で講師もしているので課題の添削も行う。19時ごろ退社。

この職業に就くには

翻訳を学ぶなら、進路は大学の外国語学部、国際学部や外国語専門学校など。ほかに理系学部などで専門知識を磨くのもあり。翻訳は社会人になってからスクールで学ぶことも可能だ。川島さんのような社内翻訳者もいるが、多くの翻訳者はフリー。一般企業などで経験を積んでから、翻訳会社の「トランクル」という試験を受け、登録して仕事を始めるのが一般的。

職種 PICK UP!!

産業翻訳者

株式会社翻訳センター
特許営業部 東京オフィス(制作担当)
マネージャー
川島悠一さん(38歳)



埼玉県立川越高校、上智大学外国語学部英語学科卒業。旅行会社に就職し、4年弱勤務。27歳で翻訳センターに転職し、4年間翻訳コーディネーターとして働いた後、語学力が評価され翻訳者兼チェッカーに。現在は特許関連の翻訳を扱う特許営業部の品質管理責任者。